



News Letter KIS 通信



国際理解推進事業 グローバルセミナー

こどもへの寄り添い、日本語指導、進路のサポート、ボランティア、行政機関との連携がキーポイント

今回は、講演とパネルディスカッションを行いました。NPO 法人 可児市国際交流協会事務局長の各務真弓さんを講師にお迎えし、可児市での取り組みについてお話しをお伺いしました。パネルディスカッションでは、当協会からの問題提起、学校教育課からの現状報告、事例紹介として近江八幡ワールドアミーゴクラブさんの活動について話して頂きました。

日頃から外国につながる子どもたちと関わっておられる方々や関心のある方 36 名が参加していただき、会場からの質問なども活発で、2 時間では収まりきれないくらいの内容でしたが、非常に中身の濃いセミナーとなりました。

「様々な背景を持っている外国人の子どもたちへの寄り添い」「しっかりした初期指導による日本語の導入」「子供たちにとって高いハードルになっている学習言語の指導」「進路に関するサポート」「子どもたちを支援するボランティアの確保と研修」「教育委員会、行政機関との連携」など重要課題を再認識しました。

外国につながる子どもたちの支援と連携を考えて終わりではなく、制度の隙間やそれぞれが行っている事業の隙間に入ってしまう子どもたちを各機関やひとが連携して具体的にサポートしていければと思います。



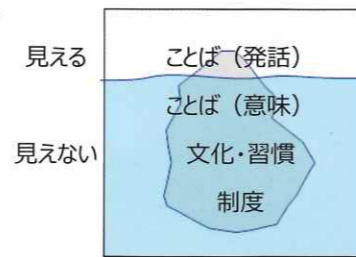
<こども学習会> 毎週土曜日 PM2:00～
まるーむにて開催 ※ボランティア募集しています

外国人相談員・支援者研修 12/27 市役所別館 101 会議室にて

自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザー派遣制度を利用し、甲賀市と甲賀市国際交流協会の共催で、外国人相談員・支援者研修を開催しました。(公財)北九州国際交流協会の矢野花織氏を講師にお招きし、外国人相談に対応している人、外国人相談に関心のある人など、スタッフを含めて 41 人が参加しました。

甲賀市には、様々なフィールドで外国人相談・支援に携わっている方がおられますが、このような研修は初めての試みでした。

お話では、行政担当者が感じている外国人対応の 3 つの壁を氷山に例え、私たちに求められていることは、誰もが気付く「言葉の壁」に翻訳対応だけでなく、意識しないと見過ごしがちな壁にも気付き、乗り越えられるよう支援することの必要性を、具体的に例示され、伝えるから伝わる、具体的に話すことの大切さを学びました。



矢野氏資料参照

参加者からは、関係者同士の連携や在留資格についての基礎知識、相談員・支援員としての心構えがわかった、改めて社会の中で見えない不利益を被っている外国人に気づき、支援していく必要性を感じた、「発見、相談→情報収集、問題の整理、検討→相談者に合った解決方法」の流れがスムーズに行われることが、クライアントの安心に結びつくことがわかった、などのご意見をいただきました。

今後もより充実した支援に向けた研修や、支援者交流会を実施したいと考えています。行政やNPO、ボランティアなど、所属は様々ですが、その垣根を越えて互いの長所を生かしながら連携できたらいいですね。甲賀市がすべての人にとって住みやすいまちとなるために、今後ともご協力お願いいたします。

学校へ行っていない子どもとの出会いをきっかけに、日本語教育事業を始められ、2003 年に NPO 法人トルシーダを設立。外国籍の住民に日本語学習の機会を提供し、地域社会とのかかわりをつくることに特化していることで、広く深い事業展開をされています。何よりも伊藤代表理事をはじめスタッフの熱い心が推進の原動力だと感じました。

事務所は、豊田市にあります。事業の実施場所は、安城市、豊田市、みよし市、岡崎市と広範囲にわたり、事業内容は以下のとおりです。

外国籍の青少年への居場所提供事業 日本語教室 CSN、みよし JSL 教室、子ども日本語教室、みよっこ広場、安城初期指導教室、土曜日教室、高校生サポート教室、ほみっこサロン

日本語教育事業 駅前日本語教室 SK、英語・数学サポート教室、外国人就労支援、中級・初級日本語教室、プレススクールきらきら、子ども日本語教室ぴかぴか、地域子ども日本語教室幸田、日本語指導者の研修、プライベートレッスン

ネットワーク事業 キャリア教育と進路サポート、翻訳・通訳業務、地域づくり事業
情報提供事業 外国人の子どもが進路開拓・進路応援冊子



←詳しくはトルシーダのHPを参照

上記学習事業参加者のうち、55%がブラジルにルーツを持つ住民で、ホームページは日本語・ポルトガル語で案内されています。訪問した、豊田市立西保見小学校は、外国人児童比率が実に約 70%にも達しています。校舎は、5 階建てのアパートが 115 棟立ち並ぶ保見団地に隣接しており、約半数が外国籍住民です。



外国人が安心して医療を受けられるための環境整備 2/27-28

研修報告 於：JIAM 全国市町村国際文化研修所 報告者：中島

まず、私たちは、この課題に対して、随分遅れていると思いました。医者が患者を診る時に、問診票や口頭で症状をよく聞き、診察に入りますが、医療通訳者がいない場合、コミュニケーションの問題が生じ、十分な医療行為ができなくなり、診察を断られることもあります。医療の入り口の問題は、命の問題になり得ます。甲賀市甲賀病院では、医療通訳システムがありますが、多くの言語対応はできません。この難問題は、国の医療政策に寄りますが、私たちは、まず現状を知り、何ができるかを考えなければならないと思いました。

講義概要

- 外国人が安心して医療を受けられるための環境整備について・・・中村安秀氏（日本 WHO 協会理事長/医療通訳士協議会会長）
- 外国人医療をめぐる国の施策の動向と今後の展望・・・今濱直隆氏（厚生労働省医政局総務課 課長補佐）
- 在日外国人の健康支援とその課題 外国人の健康権を考える・・・李節子氏（長崎県立大学教授）
- 外国人医療者からの視点・・・中萩エルザ氏（在名古屋ブラジル総領事館ブラジル人人民委員会医師）
- 市ぐるみの医療現場への支援（医療事務連絡会）・・・岩城あすか氏（公・財 箕面市国際交流協会事務局次長）
- 佐賀県における外国人を主役にした地域の支援・・・矢富明徳氏（公・財 佐賀県国際交流協会企画交流課長）

感想

- 中村医師は「医療は文化である」といわれたが、異文化を持つ外国人によりそう医療が必要です。
- 箕面市は進んでいるが、かつてインドネシア人が救急時、迅速な医療対応ができずに亡くなった事件があり、官民で医療通訳の取組が始まりました。
- 佐賀県も医療通訳サポーター派遣制度、養成講座など進んでいます。
- 一方、小さい市町では、取り組みはあまり進んでいません。
- 多文化共生社会において、健康、医療は命の問題であり、医療通訳の問題は避けて通れないと思います。





当協会では学校や保育園などからの依頼により、国際理解出前講座を行っています。2月1日は認定こども園「このつす園」で、2月14日と28日は、甲南第二小学校で出前講座をしました。

このつす園では、中国籍の園児がいることを受けて、在住中国人ゲストと中国の紹介をしました。中国の旧正月の紹介、中国の服や帽子の試着、中国語クイズ、ジャンケンなど遊びを通じて交流をしました。途中、中国籍の園児とゲストが中国語で何度か会話する場面もあり、他の園児から「すごい」と称賛の声があがっていました。

第二小学校では、1時間目は、まず、甲賀市在住外国人の現状と国際交流協会の取り組みをクイズ形式で学習してもらいました。その後、在住ベトナム人ゲストから国の紹介をしたり、ダーカウという羽遊びを教してもらったり、ベトナムの民話を読んでもらったりしました。2時間目は、ベトナム、中国、ペルー、ベネズエラ、イギリスの5人ゲストに来ていただき、児童がグループ毎に考えた交流方法で一緒に遊んだり、ゲストの国について調べた事を発表したりと、児童主体の交流をしました。



先生からは、「自ら積極的にコミュニケーションを図ることで外国の方と理解しあえることが実感できました」との感想をいただきました。ゲストのラウラさんからは「子供達と一緒に様々なアクティビティに参加できたことはとても刺激的でした。パワーポイントを使用して私の国の説明してくれたことはとても嬉しかったです。また、言語や文化の違いに戸惑うことなく、みんなで楽しい時間を過ごせたことはとても印象的でした。学校に大きな屋根付きの体育館があることに驚きました。ベネズエラではほとんどの学校に日本のような体育館がなく、あったとしても広いコートに屋根があるオープンスペースといった感じです。子供たちは世界で最も素晴らしい存在です。また別の機会にこのような活動に参加できることを心待ちにしています。」との感想をいただきました。



当協会では、学校や園のご希望やねらいに応じて柔軟にプログラムを作ったり、ゲストを紹介するなどのお手伝いしたりしています。学校だけでなく自治体や子ども会などでもこのような出前講座ができますので、ご要望があればぜひとも協会までご連絡ください。



大人の世界まなびじゅく～ネパールを知る～ 2/11

2月11日、今回は会議室から飛び出して、アルプラザ水口2階にあるインド・ネパール料理レストラン「タージマハル エベレスト」で甲賀市在住ネパール出身のご夫婦に国や文化を紹介していただきました。



雰囲気たっぷりの店内で、事前に注文していた本場のカレーに、当日はメニューにないアツァール(漬物)やサーグ(野菜炒め)もサービスして下さって、ダルバートというネパール式カレープレートを味わうことができました。また、ネパールの民族衣装のひとつサリーの着方も見せてくださいました。そして圧巻のネパールの結婚式の踊りを披露してくださいました。

ネパールではみんな踊るそうなので、始めは一緒に踊ろうとしましたが、ステップも難しくスピードも速い！ネパールの人々のエネルギーを踊りでも感じました。



お話を聞くだけでなく、食やダンスなどの実体験を通じて外国を知るの、よりその国を身近に感じることでできる良い体験となっただけでした。



タージマハルエベレスト Taj Mahal Everest ☎ 0748-63-7866

小学生のための国際理解講座

戦禍のウクライナを逃れて昨年4月から栗東市に避難してこられているチュブラ・イリーナさんと子どもの小学校3年生のマーク君に来ていただき、16名の小学生と交流しました。多くの申し込みや、当日はほとんどの保護者の方が見学されるなど、ウクライナに関する意識の高さを感じられました。



イリーナさんご自身が戦争前に撮ったウクライナでの写真なども見せながら、クイズ形式でウクライナの紹介してもらったり、ウクライナで使われるキリル文字を使って自分の名前を書いたり、ウクライナのジャンケンをしたりしました。ウクライナでも「しりとり」をするそうで、イリーナさんとマーク君はふたつのグループに分かれて日本語でしりとりをしました。また、絵本おじさんがウクライナの民話「わらのうし」を語り聞かせました。

後半は、戦争や平和についても考える時間を持ちました。参加者の児童から「戦争からどのように逃れてきましたか？」という質問もあり、イリーナさんはその時の様子を語ってくださいました。絵本おじさんが「へいわってどんなこと？」の絵本を読んだあとに、児童は自分の思う「へいわ」を付箋に書いて、ひまわりの絵の中に貼りました。何枚も書く児童もいて、子ども達も戦争のニュースを目の当たりにして、戦争や平和を意識していることがよくわかりました。マーク君も自ら紙をもらいに来てくれて「みんなが幸せにくらしていること」とウクライナ語で書いてくれました。

戦争が終わって、イリーナさん達や、いろいろな国に避難されているウクライナの方々みんなが自分の国に帰り、家族と一緒に元の生活をするという当たり前の日常が一日も早くもどってくることを心から祈ります。

最後にイリーナさんから「自分の国の興味深い文化を紹介するこのような企画や、戦争についても大変サポートしてくれてありがとうございます。」また参加してくれた児童には「友達と仲良く親切にしてほしい。世界中の人々がみんな平和にくらせますように。」と挨拶をしてくださいました。

参加児童に感想を聞くと、多くの児童が積極的に手をあげて「住んでいる所が違って友達とか仲良くなれると思った。」「りんご1個の値段が安すぎてびっくりしました。」「楽しかった。」などと言ってくれました。



<水口高等学校 国際文化コース交流授業>

イリーナさんは、12月20日に行われた水口高校国際文化コースの交流事業にもゲストとして生徒たちに話をしてくださいました。生徒さんからは、「言葉の壁で苦労されていることを知った」「私たちができることは何かを考える機会になった」「ウクライナの伝統衣装がとてもキレイだった」「ウクライナの話聞いて一日も早く普通の生活ができるようにと毎日祈ります」「日本に避難してきた人がいたら何か助けたい」「どこの国出身というより、その人を見ることが大事だと思った」「私たちの学校に来て下さってありがとう」など、日本語や英語で感想が寄せられました。

今回の交流授業が、イリーナさんの気持ちを自分の立場に置き換えて考えたり、平和について考えたり、地域の外国人の皆さんの気持ちを理解する機会になったのではないのでしょうか。

韓国利川市(孝養高校)・甲賀市(水口東中・高校) オンライン交流会

今年度は学校同士の交流ということで、利川市の孝養高校 1・2 年生 38 名と水口東中 3・高校 1・2 年生 20 名、合計 58 名の参加となりました。当日は、はじめこそどちらの生徒も緊張している様子でしたが、KPOP やアニメなど共通の話題を見つけるとすぐに打ち解けて和やかに交流が行われました。水口東高校の先生方には、お忙しい中、多大なご尽力を賜りました。以下、両校の生徒さんの感想をご紹介します。

<利川市 孝養高校>

- ☺ 多様な意見を聞くことができ、広い視野で考える機会になった。韓国のアイドルや映画、ドラマ、そして日本のアニメーションの話で一番盛り上がったのを見ると、メディアの重要性がもう一度確認できた。
- ☺ 日本人の生徒と対話するのは初めてで、短い時間でも日本の生徒と話せてよかったし、あれこれ話しながら友達になれたようで嬉しかった。
- ☺ 日本に関して知りたいことが、直接質問できてよかった。国家的な関係と関わりなく、互いに好意的な感情を共有できた。私は日本のアニメーションと漫画が好きで、日本に関心があることを話せてよかった。
- ☺ 初めてだったし日本語がよくできなくて、気が気でなかった。日本の友達と短い時間だったが、会話できてよかった。日本語を一生懸命勉強して、もっと話したい。
- ☺ 互いの文化が違うことを実感した。互いに違う国の観点で会話するので面白かった。
- ☺ 日本の生徒たちと対話するのは初めてで、不思議で楽しかった。
- ☺ 教科書の日本語ではなく、生活の日本語は違うことを感じた。日本の文化が思ったより韓国と似ていて、会話の時に使われる言葉が面白かった。外国の人と話す機会が多くないので、いい経験だった。
- ☺ 日本語ができず、聞き取れなくて流れについていくのが大変だったが、日本の学校について知ることができてよかった。
- ☺ 日本の友達と交流できて、忘れられない思い出になった。
- ☺ 日本の友達と交流してみて私達と同じだと思った。日本語で会話しながら楽しく面白い経験ができた。
- ☺ 言葉が通じなくても何とか意思の疎通ができるのが不思議で、K-POP アイドルが好きだと聞いてうれしかった。
- ☺ 日本の友達に気になることが聞けて解決できて、とてもよかった。日本に対するいいイメージももてた。
- ☺ みんなにこやかで親しみがもてた。歴史的に不便な点もあるが、話してみたら結局みんな同じ人間なのだなと思った。
- ☺ 国が違うということを感じないほどで、こちらの学校でみる友だちの姿と変わらず、親しみを感じた。



<甲賀市 水口東中・高校>

- ☺ 良い機会だった。日本のアニメが話題になっていた。
- ☺ 最初は不安だったけど、韓国の方が日本語が上手で楽しく話せた。
- ☺ 韓国の文化や学校の制服を知ることができてとても楽しく交流できた。
- ☺ 韓国に興味があったので参加したが、韓国の文化が知れたり、日本の文化を伝えたりするのが本当に楽しく、良い経験になった。
- ☺ こういう企画に参加して交流できたことを嬉しく思った。ありがとうございました。
- ☺ オンライン交流はとても貴重な機会でありがたかった。
- ☺ 実際に接してみると、とても優しい人達で、もう一度したいと思った。とても楽しかったし、オンライン交流をしてとてもよかった。
- ☺ 互いの国の文化の理解や共通の話題の交流などで盛り上がることができ、親しくなることができたので楽しかった。



製造業が盛んな三重県鈴鹿市の外国人人口は全体の 4.4%と、甲賀市(4.2%)よりもやや多い割合で、国際交流協会が担っておられる役割も大きく、多文化共生に関することや姉妹都市との交流事業など、当協会と似通った活動をされています。そのようなことから、災害時だけでなく平時の活動においても情報交換や交流、連携ができるよう、三重県鈴鹿市の公益財団法人鈴鹿国際交流協会と協議を重ねています。

災害が発生した際、近隣の市や町だと同時に被災することが考えられ、少し離れたところから支援に入ってもらわなくてはならない場合があります。また、距離的にも車で 1 時間程度でお互いの市を行き来できることから、広域でのパートナーシップ関係を築き、相互に協力しあえることを願っています。

- ・災害時多言語支援センターの運営に関する事
- ・防災訓練に関する事
- ・地域での外国人と日本人の交流に関する事
- ・その他多文化共生に関する事

国内においては、京丹後市・城陽市(京都府)・西宮市(兵庫県)・安芸高田市(広島県)の国際交流協会間で広域他市連携パートナーシップ協定を結ばれており、一緒に多言語センターの立ち上げ訓練や避難所巡回訓練などを行ってまいります。

まずは、お互いの活動をよく知って、関係者が顔の見える関係をつくろうと、役員、市の担当者、事務局がオンラインで情報交換を行いました。また、3月7日には、NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会の副代表理事であり、甲賀市の多文化防災のアドバイザーもお務めいただいている高木和彦氏により、広域連携の必要性や具体的な連携内容について、関係者が理解を深めました。協定の締結がゴールではありませんが、公益財団法人鈴鹿国際交流協会と一般社団法人甲賀市国際交流協会の正式な締結は5月の総会以降になる予定です。



2022 年度日本語ボランティア養成講座 1/7~2/18 全4回

昨年度に続き、活動中のボランティアが講師となって「日本語で日本語を教える」日本語ボランティアの養成講座を開催しました。講師を務めていただいた日本語教室「虹」のボランティアである勝尾さんによる実践型の講座は、受講者の「やる気スイッチ」を入れていただける内容で、講座終了後の「虹」のボランティア学習会にも4名が参加されるなど、日本語ボランティア活動への関心を深めるものとなりました。

国の水際対策が緩和されたことから、新たに入国される外国人が増え、日本語学習を希望される方も増えています。今回受講して下さった16名の受講者の方の中から、新たに一緒に活動していただけるボランティアが誕生されることを願っています。



<2023 年度の日本語教室について>

- 日本語教室「虹」 月曜日 PM2:00~ 「まるーむ」
※他の曜日や時間を希望される場合はご相談ください。
- にんじゃ日本語教室 土曜日 PM7:30~ 「水口中央公民館」
※前期教室(4月~7月)の申し込み受付は終了しました。

にんじゃ日本語教室で日本の遊びイベントを開催

2月11日、「にんじゃ日本語教室」のイベントが行われ、「ふくわらい」や「あやとり」など、昔からある日本の遊びで盛り上がりました。今回の本紙の表紙を飾ったのは、「ことわざカルタ」を楽しむインドやブラジル出身の学習者。次は諺の意味にチャレンジ!



中学生 オンラインで姉妹都市交流 2/26

日本時間 2月26日(日)AM9:00~10:30、甲賀市内の中学生4名と甲賀市の姉妹都市であるミシガン州デウィット中学の生徒2名がオンラインで交流しました。(主催:甲賀市教育委員会)

まずは、自己紹介。全員が相手の国の言葉で話していました。そして、「わたしのまちや学校、家族などの紹介」を1人ずつが発表。甲賀市の中学生は「飯道山」や「忍者」「かんぴょう」などについて、デウィット市の中学生は「学校紹介」や「Sweetie-licious」というデウィット市で有名なお店を紹介していました。



・ミシガンは今、何時ですか? → 2月25日(土)の夜8時です。

・デウィット中は制服はありませんが甲賀市の中学校は制服はあるのですか? 制服は好きですか? → あります。スカートなので寒いです。



・アメリカのハンバーガーは大きいのですか? といった質問には、実際に手で大きさを表現。皆さんお互いの国の文化に興味津々な様子でした。最後に今日の感想として、「アメリカの夏休みが長いから、そちの学校に行きたい。」「皆さんと出会えてよかった。日本・甲賀市の文化を知れてよかった。」「とても楽しかった。ありがとう。」と短い時間でしたが、交流を楽しんだ様子でした。



コロナ禍で相互交流が出来ない中でもオンラインで姉妹都市交流を続けられたことは、大変嬉しく長年の交流の歴史があるからだと感じました。今回参加された生徒さんも今後市民交流などにぜひ参加してほしいです。

顔の見える社会、つながる社会を目指して 3/12

「あなたのえがおに会いたくて」をキャッチフレーズに、鹿深夢の森にて、甲賀マルシェと共催で、ひゅうまん鹿深主催のバリアフリーマルシェが開催されました。



午前中は、ホールで、4人のパネラーが持ち味の楽器演奏や演歌、漫談を交えて、普段感じておられる社会的障壁について、パネルディスカッションを行いました。心に響くピアノ、オカリナ、演歌は、心のバリアを取り除いたことでしょう。



午後は、躍動感ある岩上太鼓や和田グループの平和コンサート、キッチンカーで出店のイリーナさんのご挨拶、いずれも来場者の心にジーンとくるものでした。フィールドでは、視覚、聴覚、物理的、ことばの障壁を体験することで共生社会について考えていただく機会になったと思います。当日の来場者は約1000人、お店の数38、うち外国人市民の出店が8店舗あり、これまでにない多様な人々の集う場となりました。

Together WBCで侍ジャパンが14年ぶりに王座奪還! 口試合内容もさることながら、活躍した選手に関わった多くの方々もニュースに登場されます▲そんな中で興味をひいたのが日本選手や応援団の礼儀正しさです☆対戦相手へのリスペクトやベンチ使用のマナー、お菓子を持参しての謝罪◆W杯でのサポーターの清掃を思い出しました◎日本特有の文化であれば、KISでの交流もまたしかりで、常に心がける必要はありそうです(E)

<総会のお知らせ>

下記の日程で、甲賀市国際交流協会解散総会と一般社団法人甲賀市国際交流協会設立記念総会を開催します。

日時: 2023年5月20日(土) 午前10時~
場所: 甲賀市まちづくり活動センター まるーむ2階
※終了後、協会の活動について語りながら簡単な交流の場を設ける予定です。

甲賀市国際交流協会
Koka International Society

〒528-0005 甲賀市水口町水口 6053 甲賀市役所別館 2F
TEL:0748-63-8728 FAX:0748-70-6468 Email: mifa@mx.biwa.ne.jp
月~金(祝日除く AM9:00~PM5:30)

※2023年4月より
一般社団法人甲賀市国際交流協会

